

読書の秋ですね♪

- ◆プラグインシステムについて
- ◆外国語新聞について
- ◆2階英語学習コーナー紹介
- ◆掲載コラム

「こんにちは、図書館の中の人です。」



特集

「卒論・修論先輩インタビュー」

論文執筆中のタイムスケジュールなど、
先輩へのロングインタビューです!!

裏面をご覧ください



しょうようかん

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遙館）

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>

Twitter : @yoshidasouthlib

HP



Twitter



L
i
b
r
a
r
y
N
e
w
s
l
e
t
t
e
r

【お知らせ】電子ジャーナル・データベースへの新アクセス方法について

**2019年11月以降、電子ジャーナル・データベースのご利用には、
専用プラグインシステムをインストールしてください**

10月から電子ジャーナル・データベースへのアクセス方法を変更し、新たな認証システム「プラグインシステム」を導入しております。

11月以降、プラグインを導入していないブラウザからは、電子ジャーナルのご利用ができなくなる予定ですので、専用プラグインシステムをインストールしてください。

なお、利用できるブラウザは、Google Chrome、Mozilla Firefox(※Windows版、MacOS版、Linux版のみ)となっておりますのでご注意ください。



詳しくはこちらから

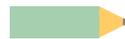
多読に最適！2階英語学習コーナー

みなさんは当館2階上がって東側の窓際にある書棚をご存知でしょうか。数年前に新しく設置した「英語学習コーナー」のための書棚です。ここには、英語の資料を日本語で読むように、辞書なしで十分に理解できるようになるための素材がたくさん置いてあります。

例えば、Penguin readersやOxford bookworms libraryなどは、見出し語数別にレベル分けがされていて、今の自分のレベルにあった本を選んで読めるのでお勧めです。

また、自分の研究分野の洋書に挑戦する前の肩慣らしとして読むのであれば、ポピュラーサイエンスが揃っているVery short introductionsも良いと思います。(ア)

気になった方はKULINEで検索してみてください！また、KULINEでは「英語学習」でタグ検索もできますので是非お試しください。



2階英語学習コーナー



Follow me ! @yoshidasouthlib



【お知らせ】「光明日報」「人民日報」の受け入れ終了について

外国語新聞「光明日報」「人民日報」の受け入れを12月で終了致します

※今後はオンライン版をご覧ください

[光明日報] <http://www.guangming.com.my> [人民日報] <http://www.people.com.cn>

2020年1月以降、吉田南総合図書館で閲覧可能な外国語新聞は下記になります



■Frankfurter Allgemeine ■Le Monde
■The Times ■NewYork Times ■JAPAN Times

※バックナンバーは1年分あります
カウンターにてお尋ねください



【コラム】 こんにちは、図書館の中の人です。

こんにちは、図書館の中の人(ILL (Inter Library Loan)担当)です。

10月中旬の台風一過で、一気に秋めきましたが、みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

台風19号は日本各地でたいへんな被害をもたらしましたが、大学図書館でいうと、東京都市大学や東北大学附属図書館、一橋大学附属図書館などが水害を受けました。昨年、吉田南総合図書館においても台風の影響で大雨漏りがあったため、その対処の大変さはいかばかりかと(建物・蔵書の被害もさることながら、利用する人・提供する人も)。復旧を心から願っております。ちなみに東北大学附属図書館は、1972年(設計: 鬼頭梓^{ましろ あずさ})竣工・翌年開館、吉田南総合図書館は1973年に竣工されたので、ほぼ同級生の建築物として親しみを持っています。とても開放感のある素晴らしい図書館ですよ。(1)

吉田南総合図書館の10月は、授業支援や電子ジャーナル・データベース講習会・文献整理講習会など、お話しさせていただく機会がたくさんありました。また夏季特別貸出で大量の図書が返却され、連日職員が配架に明け暮れたのも、もう遠い昔のような良い思い出です。そして、11月は通常業務に併せて、来年度の利用案内などの広報物、年間計画をじっくり考える比較的穏やかな月になりそうです♪



・・・ところで、誰も聞いちゃいせんが、秋の始まりにさらに短くベリーショートにしました。長崎にいる友人は前髪がもっと短いので今度はそのを目指します!(冬はそれで寒くないのか?)
それでは、また次回。



裏面 『先輩インタビュー』



特集

先輩にお話を聞きました 卒論・修論執筆インタビュー



お話を聞いた先輩：T.T さん

文学研究科倫理学専修 修士課程3回生(M3)(平成31年3月時点)

■現在の研究テーマを教えてください。

「前期ヴィトゲンシュタインにおける倫理の解明」です。

■その研究分野に興味を持たれたことについて詳しく教えてください。

卒業論文のテーマが、「Why Be Moral?」（なぜ道德的であるべきか）でして、それを研究していたのが、デイヴィッド・ゴティエという哲学者でした。彼は、情けは人の為ならず、つまり道徳的にふるまうほうが得だよ、という結論を与えていて、このことについて勉強していたのですが、彼の結論とは違う方向で道徳的であるというのはどういうことかを調べたくて、ヴィトゲンシュタインに移ったんです。ヴィトゲンシュタインは一般的に、『論理哲学論考』*1で有名で、この中で彼は、倫理学は超越論的だ、ということを書いていて。

例えば、自分にとって得だからとか、相手の人格を重んじるとかそういうアプローチとは違う話、ある意味異質な方面から倫理を扱っているところに惹かれました。彼のアプローチの中に、「Why Be Moral?」に対する答えの一端があるんじゃないかと思って、ゴティエから、ヴィトゲンシュタインに移っていきました。

2008年、当時僕は高校生だったのですが、この年に秋葉原の通り魔事件があって、その人は生きることに絶望していて、何人も殺すわけですが、「それでいい。むしろ死刑になんたくてやった」と考える人がいる。この世の利得を勘定に入れない人がいるということに驚愕しました。刑事犯罪については禁固刑や死刑などの刑罰が下される、でもそれを受けると、という人、刑罰とかでは縛れない人に対して、だったらどうやってそういう人たちにその行為をしてはいけない、道徳をどうやって伝えたらいいんだろう、と。

そもそも伝えるべきなのかという問題もあるとは思いますが、この事件がきっかけで一層考えるようになりました。

■どうして修士に進もうと思われたんですか？

そうですね、一つは就職活動があまりうまくいかなかったということがあります。倫理についてまだ勉強したいなという気持ちもありました。卒論と修論の興味は一続きで来ています。

■どんなタイムスケジュールで執筆をされましたか？

まずM1の春は卒論の続きで研究を進めていました。M1の9月か10月にテーマをヴィトゲンシュタインに変更しました。テーマを別の視点から攻めたかったのが、ヴィトゲンシュタインについては本当に素人だったので、入門書を読み始めました。

この時点で先生から、M2までに書けないのでは、と言われて、M2の1年間休学して、その間は、倫理だけに限らず、ヴィトゲンシュタインについての二次文献を網羅的に調べていました。

M3になってから、年間3回(5月、10月、12月)、90分の中間発表がありました。大学院生、先生、学部生あわせて16-17人が集まります。発表自体は30分くらいで、残りは質問時間や院生とディスカッションで、あとは今後このようにしたらという提案などを指導教員からいただいていた。教員とはそれ以外はあまり連絡を取らなかったです。うちの研究科は特に時間をとって発表をやっていると思います。結構厳しいほうですね。

(文学研究科の)倫理学専修だと、卒論の時でも90分まるまる使って発表するスタイルを取っていますが、院生からの質問を受けて、それに答えるのがすごく重たいです(笑)。ですので、これをこなせればこの学会行っても大丈夫と、先輩にも言われていました。

執筆は、M3の10月に前半部分を書いていました。書き終えたのは、1月の提出ギリギリになりました。締切当日にやっと出せるくらい。順調かと思いきや、結局そうになりました。ちなみに、この研究分野については、先輩からは、謎すぎて掘るところがないから、という理由で何度も止めたほうがいいと言われていました(笑)。

■書き終わった感想は？

ほっとしています(笑)。内容に関しては納得のいくものではなかったんですが、とりあえず書いてほっとしています。4万字書くのはいへんで苦しいです。いつもそうなのですが、苦しいことの一番は書くことでした。書くこと苦手なんで。

発表したものを切ったり貼ったりする作業が大変。作業をしていると、途中で、自分がやっていることに意味があるのか?という虚無な気持ちになってくることもあって(笑)、それがつらかったですね。つらさを乗り越えることはできないので、もう締切が近づくにつれてやるしかないなと思ってやっていた。

*1 『論理哲学論考』<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB03391492> *2 CiNii(NII学術情報ナビゲータ):論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報

*4 『なぜ悪いことをしてはいけないのか』<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB00589849> *5 『カラマーゾフの兄弟』<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp>

■満足のいく出来でしたか？

問いの設定自体は納得のいくものだったけれど、それにこたえるプロセスで、肝心なところが明瞭さに欠けたなど。あと、既存の解釈に対して、新しい見方を提示することができなかったこと。この2点について悔いがありますね。諮問でも指摘されました。先生方に「結局既存の解釈との違いは何？」と問われて、明らかな違いを提示できなかったです。

■後輩へのアドバイスは？

とにかく書く。キーボードをとにかくたたく。メモ帳やコピー用紙の裏とかに図やキーワードだけでも書いてみるとかしてとにかく手を動かすことですね。それで1日にわずか1文しか書けなくても、自分を納得させる糧になります。「よく頑張った！」と。何もできない日が一日でもあると、そのままずるずるできなくなっていから。僕の場合は、よく「別件保存」というやり方を使っています。名前をつけて、とにかく保存する、それを更新して上書きして保存するだけで、前のファイルと比べても少しは進んだなと思えて嬉しくなれるから(笑)。

■修論を書くうえで、吉田南総合図書館に対して何か期待することがあれば教えてください。

必要な文献は図書館で収集することが多かったですし、京大にない本は他大学からの取り寄せで対応してもらいました。

利用すればよかったなと思ったサービスに、図書館で開催されていた文献収集CiNii^{*2}やデータベースの使い方のためのガイダンスがあります。M3の秋ぐらいに出席しようと思っていたのですが、単純に忙しくて、予約したのに忘れてしまっで、参加できなかったことはすごく残念でした。

こういった内容のガイダンスは有用だと思うので、可能であれば、各研究科、学部で、春や秋の概論の1回目とかに来てもらって、クラス単位で授業のような形態で開いてもらえると嬉しいなと思っています。

図書館で開催される講習会って、あまり授業スケジュールと連動してなくて、微妙にかみ合わない時間におこなわれていたりしますよね。ですので、独立したものでなく、研究科や学部と一緒にやってもらえるとありがたいです。

受動的に情報が入ってきてほしいというのがありますが、今は能動的に動かないと知りたい情報にアクセスできない、というのがありますよね。

■自分の研究において、影響を与えた本や作品などはありますか。

『アキハバラ発「00年代」への問い』^{*3}です。通り魔事件について、哲学者、社会学者、文芸評論人がコメントを出している本で、この中の執筆者の一人、永井均という哲学者が書いたコラムに影響を受けました。



この人も、‘Why Be Moral?’(なぜ道徳的であるべきか)を研究している人で、『なぜ悪いことをしてはいけないのか』^{*4}という本も執筆しています。

他の人とは全く毛色が違う分析法で、彼だけそもそもなぜ人を殺したらいけないの?とっていて。彼の考えを知って、自分と同じ問いを抱いている先人に出会えたことに驚きました。「いかれてんなあ」と思いました(笑)。

あとはドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』^{*5}ですね。登場人物の中に進歩的な無神論者がいて、その人の罪に対してのとらえ方に影響を受けた。ヴァイトゲンシュタインもこれを読んだといわれていて、仲間を得たと感じました。

■これからの夢を教えてください。今、思っていることでもいいですし、研究以外のことでも。

研究に関しては、これからは後期ヴァイトゲンシュタイン哲学全体における倫理の持つ意味をとらえて新しい見方を提示できたらいいなと思います。

もちろん研究としても貢献できると思うけれど、それによって自分が朗らかに納得のいく形で、生きられたらいいなと思っています。哲学の勉強をしている人って、自分の生き方とテーマが結びついている人が多いと思いますね。

■自分にとって研究とはなんだと思いますか？

インプットは楽しいけど、形にするのはとにかく苦しいし、いつもやめてしまいたいと思います。端的に言うと嫌だな。なんでこんなに苦しんでるの?ろくなものもできないのに、と。

本を読んでいる時は気持ちがいいんです。「そうそう本当にそうだな」と思って読めるので。でもいざ書く段になると筆が進まない。Ambivalent^{*6}などところがあるんですが、書くことは嫌いなのに、書きたいんですよ。書きたいことがあって、いつも書けないけど、それでも書きたくて。

それは自分にとってももちろん大事なことで、もしかしたら世の中にとっても大事なのかも。何かとりつかれているというか、やられてるのかもしれないですが、書かなければいけないことがある。それをしないで終わるのはとても寂しいという気持ちがある。書けたらさっさとやめたいんですけどね。到達したいと思っているのでしばらくは続けます(笑)。



貴重なお話をありがとうございました！

開館日程表



11月

- 京都大学11月祭
21日(木)-24日(日)

12月

12月27日-1月5日は休館します

1月

- 臨時開館 & 開館時間延長
※試験期間中は下記の通り変更

00 9:00-21:00

00 10:00-18:00

00 10:00-18:00

1月は試験期のため
定例休館はありません

00 9:00-20:00

00 10:00-15:00

00 休館

00 定例休館

11						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12						
12月27日-1月5日:休館						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1						
2020年(令和2年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

環on 開室日程表



話せる図書館

「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室:月~金 9:00-17:00

休室:土・日曜日・祝日

創立記念日(6/18)

冬季休業期間

卒業式の翌日~4/3, 8/11~8/20